

# 小平構成員コメント資料

2014年3月7日第四回地域資源戦略協議会 小平紀生

## (1) アクションプランの内容について

各施策とも、具体的なアウトプットにつなげるための、次ステージへの移行など仕組みは良く工夫はされているが、成否は有効で社会価値の高いテーマの設定・採択にかかっている。

### 【農水省：農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業】

- ・農水食品関連技術以外と連携した「日本の工学技術活用」「成果物の国際競争力」をキーワードとした取り組み強化したい。

### 【総務省：戦略的情報通信研究開発推進事業】

- ・研究開発の直接的対象が情報通信としても、情報通信の目的の社会価値を評価が重要。(提示されている研究例は好例)

### 【文科省：地域資源等を活用した科学技術イノベーションの実現】

- ・「イノベーション」は往々にして新しい実現対象で捉えられるが、既存産業・既得基盤の競争力が格段に強化される基礎技術への注目が重要

## (2) 地域資源戦略の基本的着眼点について

### ① 地域でクローズしすぎない

具体目標やメインプレーヤでは地域色を出すべきであるが、関連・協力の広がりはその地域に閉じすぎず全国・全世界に求めるべき。

← こじんまりとせぬよう。成果は地域に広がり世界に

### ② 国際競争力の有無を真摯に見極める

目標成果に国際競争力があるかどうかは謙虚に評価すべき。真似でもそれなりに成果が上がりそうなものに競争力は無い

← 国際競争力(クローズ)と国際指導力(オープン)の明確化

### ③ 地域の既存インフラを含め有形無形の蓄積を守る

新たなポテンシャルを求める課題を20%、現有ポテンシャルを強化する課題を80%採択すべき

← 新機軸は常に求めるとしても、底力の上にしか定着しない

### (3) 地域資源戦略と連携政策について

**①社会的価値のある成果をあげるには産産連携を主軸に  
【(2)②に関連】**

同一カテゴリの産学の課題の共有化は蓋然性の高いものに  
落ち着く。イノベーティブな展開は異業種間の産産連携から。

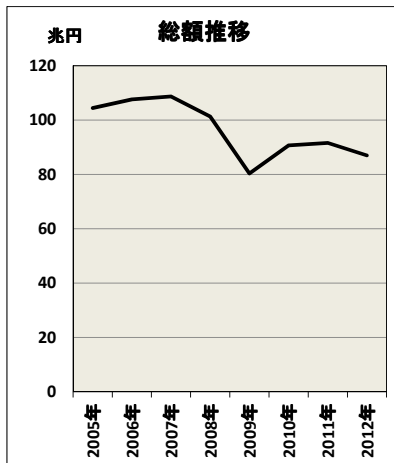
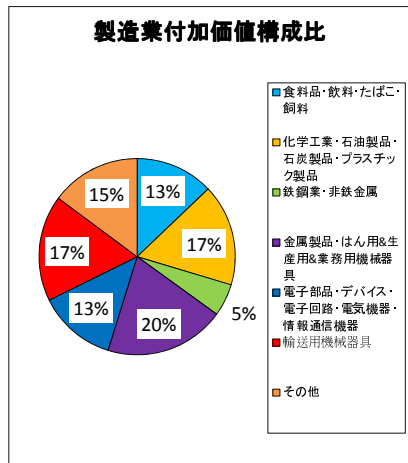
← 例)システム&エレメント&マテリアルのアライアンス

**②関連業界団体の地域横断的ミッション 【(2)①に関連】**

業界共通課題のステアリングと成果の横展開のためには業  
界団体の関与が有効

← 例)メーカ&SI&ユーザのアライアンスのリエゾン機能

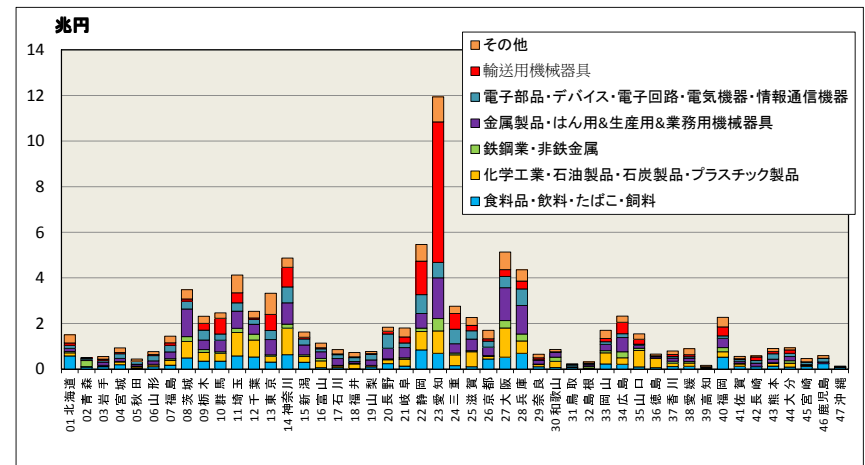
# 全国の製造業付加価値



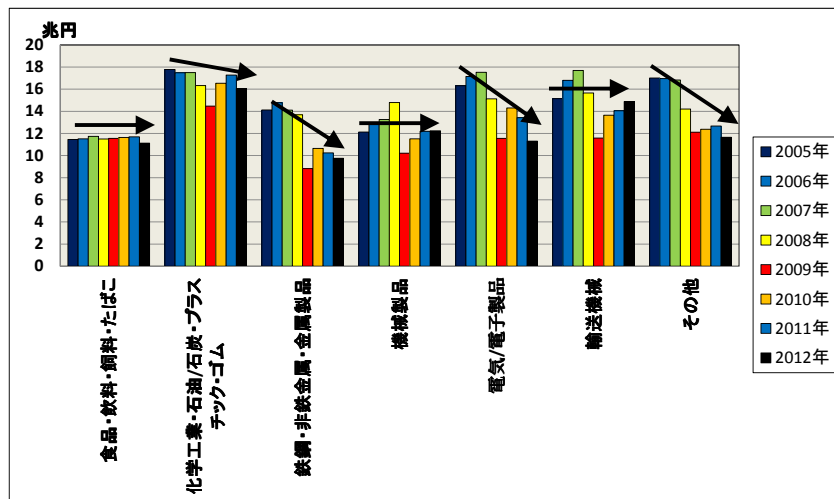
国内には各種業種が比較的偏りなく保有されている。

製造業付加価値総額は1991年の126兆円をピークに長期低下傾向。

# 各県の製造業付加価値額



# 国内業種別付加価値増減



# 業種タイプ別構成比

